

篆刻研究 選評：佐藤煒水

次号課題 「遠慮」

今月の課題は論語の衛霊公編の「人而無遠慮 必有近憂」から転借した「遠慮」とする。

訓読は「子曰く 人にして遠慮なければ、必ず近き憂あり」で、意味は「遠い将来のことについてきちんとした考えを持っていないと、必ず近いうちに困ることが起こるものだ」といったところか。

「遠慮」は現在では「人に対して、言葉や行動を慎み控えること」の意に使われるが、「遠きを慮（おもんばか）る」と解するのが本来の意である。

この言葉は、組織運営の要諦である。

参考作品



優秀作品



荒井 碧水

オーソドックスで
誠実な印。



熊谷 信江

味わい深い線で
腐食に雅味がある。



曾我部 淑子

ビギナーとは思え
ないシャープな線。



江崎 文章

力強い線で雅印
として使える。

- 出品資格…特に制限なし。
- 印（印影）の大きさは3センチ以内（形は自由。楕円・長方形等も可）。
- 印影を白の半紙1／4に押印し、右側に条幅出品券を貼付。
- 課題文字以外の随意作品も出品可。消しゴム印も可。